

令和5年度大学入学者選抜実態調査について

調査の目的・内容

- 令和3年7月に取りまとめられた「大学入試のあり方に関する検討会議 提言」において、実証的なデータやエビデンスに基づく政策決定の重要性が指摘されており、大学入学者選抜の多様化・複雑化が進む中で、国としての確な現状分析に基づいて検討を行うためにも、国内の全大学・短期大学が現在実施している入学者選抜の状況について、最新の動向を網羅的に把握する必要がある。
- 各大学が実施する大学入学者選抜について、選抜区分ごとに詳細を把握し、設置主体別等の分析を行う。
- 既に実施した大学入学者選抜の選抜区分基本情報、大学入学共通テストの利用状況、個別学力検査の実施状況、英語資格・検定試験の活用状況、記述式問題等の出題状況等を調査。

調査の実施時期・方法

- 令和5年7月10日～令和5年8月31日の期間に各大学に回答を依頼・回収。
- eメールによる調査票の発送及び民間委託業者による回答票の回収・集計により実施。
(遅れて回答のあった大学等も含め、令和5年9月28日までの回収分を集計)

調査の対象

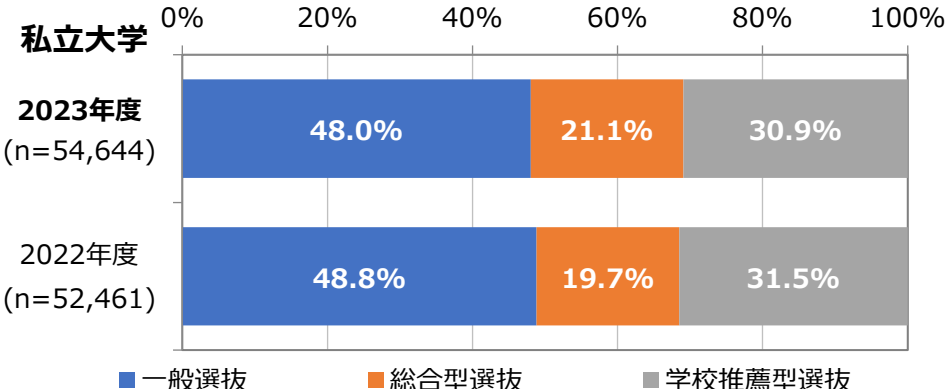
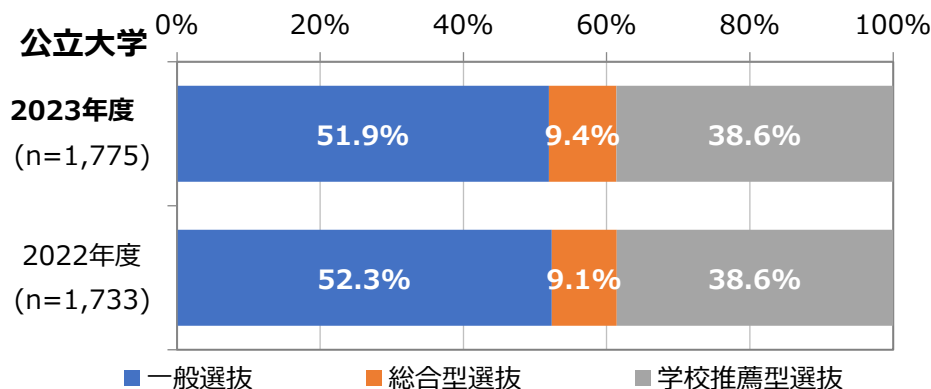
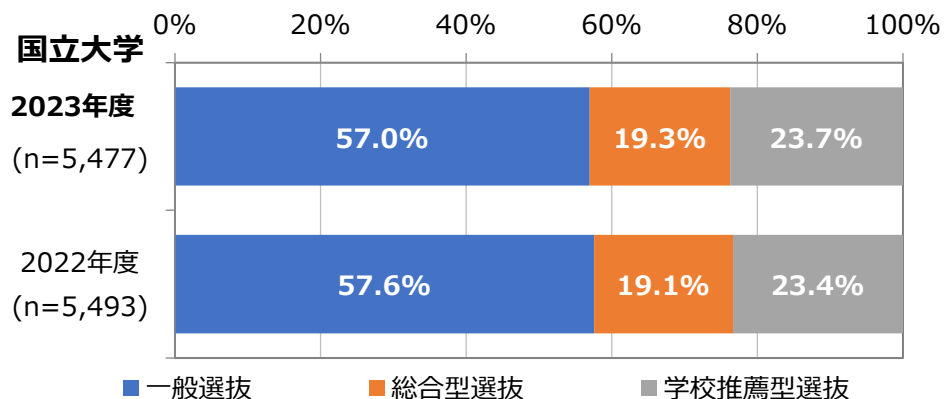
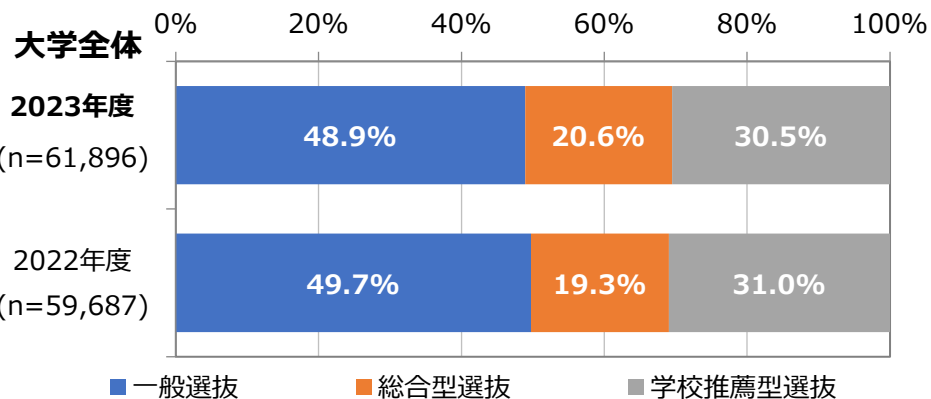
- 国内の全大学及び短期大学（大学院大学と学生募集停止の大学・短期大学を除いた、国立大学・公立大学・私立大学・公立短期大学・私立短期大学の計1,072校）
- 回収数：1,072校（79,063選抜区分）、回収率：100%

令和5年度大学入学者選抜実態調査の主な調査結果について

令和5年度大学入学者選抜実態調査の主な調査結果については、以下のとおり。

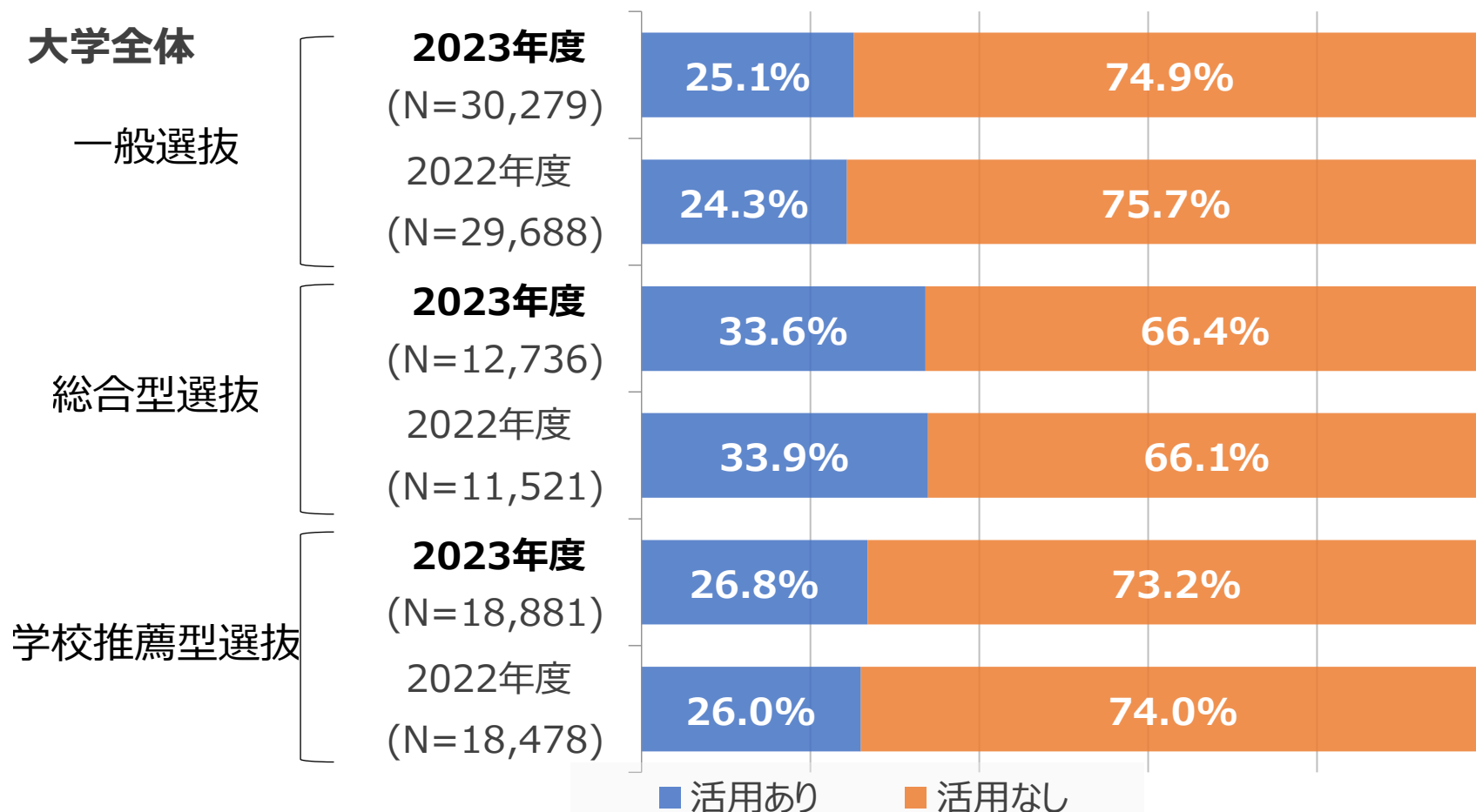
● 選抜方法

- 一般選抜、総合型選抜及び学校推薦型選抜の3つにおいて、総合型選抜の割合が増加。
(国公立別でも同様の傾向)



● 英語資格・検定試験の活用

- 英語の資格・検定試験の活用がある選抜区分の割合は、一般選抜及び学校推薦型選抜で増加。（総合型選抜はほぼ横ばい）前々回（令和2年度調査）と比較し、一般選抜で8.7ポイント、学校推薦型選抜で5.2ポイント上昇。
- 選抜区分数の総数が2,209区分増加したなか、英語の資格・検定試験の活用がある選抜区分は1,026区分増加。



※nは、国立大学・公立大学・私立大学において一般選抜・総合型選抜・学校推薦型選抜を実施する選抜区分数

● 個別学力検査における記述式問題の出題状況

○ 一般選抜における個別学力検査において、記述式問題（短答式・穴埋め式を除く）が出題された選抜区分に係る入学者数・割合とも増加。

	入学者数		記述式問題（短答式・穴埋め式を除く）			
	2023年度	2022年度	出題あり		出題なし	
			2023年度	2022年度	2023年度	2022年度
国立大学 （一般選抜で個別学力検査を実施する選抜区分の入学者数に占める割合）	69,124	69,128	68,134 (98.6%)	67,779 (98.0%)	990 (1.4%)	1,349 (2.0%)
公立大学 （一般選抜で個別学力検査を実施する選抜区分の入学者数に占める割合）	16,995	16,684	16,659 (98.0%)	15,659 (93.9%)	336 (2.0%)	1,025 (6.1%)
私立大学 （一般選抜で個別学力検査を実施する選抜区分の入学者数に占める割合）	161,211	164,167	93,939 (58.3%)	91,299 (55.6%)	67,272 (41.7%)	72,868 (44.4%)
大学全体 （一般選抜で個別学力検査を実施する選抜区分の入学者数に占める割合）	247,330	249,979	178,732 (72.3%)	174,737 (69.9%)	68,598 (27.7%)	75,242 (30.1%)

その他の主な調査結果については、以下のとおり。

【試験問題の公表】

- 個別学力検査における試験問題の公表状況について、約9割（国立大学（95.2%）、公立大学（89.6%）、私立大学（93.2%））が全て又は一部を公表。

【大学入学共通テスト（以下、「共通テスト」）の利用の実態】

- 一般選抜において共通テストを利用して合否判定する選抜区分（※1）は、国立大学93.3%、公立大学96.7%、私立大学45.1%。
- 共通テストを利用して合否判定する場合、一般選抜においては、国立大学は7科目の利用、公立大学は7・4・6科目の利用、私立大学は2・3科目の利用が多い。

【個別選抜の実態】

- 共通テストを利用していると回答した選抜区分のうち、更に個別学力検査（※2）を実施しているのは、一般選抜67.2%、総合型選抜3.4%、学校推薦型選抜4.7%。
- 一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須+選択 87.3%）、数学（同 76.3%）、国語（同 69.6%）を出題する選抜区分が多い。

【学校推薦型選抜の実態】

- 学校推薦型選抜の種類を入学者数別でみると、公募型が国立大学99.0%、公立大学91.3%、私立大学22.4%。

【記述式問題等の出題の実態】

- 一般選抜における個別学力検査において、記述式問題を出題している選抜区分の割合は、国立大学は全体の99.4%、公立大学は98.8%、私立大学は39.8%である。

※1 共通テストを利用しない選抜区分は、国公立とも0%。（共通テストを利用して合否判定しない場合でも、一定の得点以上を2次試験受験資格として設定するなどにより利用）

※2 本調査における「個別学力検査」は、学習指導要領に定められている教科・科目の学力検査、「総合問題」としている。「小論文」、「面接」、「討論」及び「実技検査」等は含まない。